

三二八四番

菅すがの根ねの ねもころごろに 我あが思おもへる 妹いもによ  
 りては 言ことの忌いみも なくありこそと 齋いは瓮ひへを  
 齋いはひ堀ほりすゑ 竹たか玉たまを 間まなく貫ぬき垂たれ 天あめ地つちの  
 神かみをそ我あが祈のむ いたもすべなみ

反はん歌か

三二八五番

たらちねの 母ははにも告のらず 包つつめりし 心こころはよ  
 しゑ 君きみがまにまに